



みずの あきら
水野晃 議員

Mizuno Akira

Q. 広域防災拠点の誘致は

A. 有力な候補地となり得る

県議会9月定例会で、自民党の伊藤辰夫議員から「大規模災害時の後方支援を担う、新たな防災拠点の確保について」の代表質問があった。
大村秀章知事は「災害時に県民の生命と財産を守り、被害を最小限に食い止めていくためには、直ちに救出救助部隊を投入するとともに、緊急支援物資の輸送や応急復旧活動を展開していく、新たな防災拠点を確保していくことが極めて重要」との考えを示した。
具体的な内容には触れられなかったが、条件として「津波や高潮などによる防災リスクが低く、空港や高速道路網に直結し、活動要員のベースキャンプ機能、物資の備蓄と中継・分配機能およびこれらを制御する本部機能を合わせ持ち、防災に関する教育・訓練施設として24時間の危機管理体制を確保することも重要」との考えも示した。



知事の答弁に対する町長の見解は。

A 産業建設部長
防災拠点の充実は、非常に重要であると考えている。

Q 新たな広域防災拠点について、町長は誘致を明言されたらいかがか。

A 産業建設部長
本町も有力な候補地になり得るものと考えている。



Q 誘致は、招かれたほうが様々なコストを負担することになる。もちろん、多少の優遇はあり、その優遇をもって、来ていただくよう誘うことである。知事答弁では、具体的な構想は明らかにされていないが、町長は誘致に向けてどのような対応・対策を考えているのか。

A 町長
近年、全国各地で大きな災害が発生しており、防災に対する取り組みは、本町にも差し迫った課題ととらえている。愛知県の進める新たな防災拠点の動向を見極めつつ、本町で取り組むべき防災機能の強化を着実に進めていく。

Q 広域防災拠点は、県全体の防災拠点となる構想である。一定程度まとまった面積が必要となる。町に誘致する際、町長はどこを適地と考えるのか。

A 町長
県が適地を選定する際には、すでに建物が多く存在

する地域ではなく、ある程度広域な開発が可能な地域が選ばれると考えている。

Q 町長は、行政のトップとして、愛知県と名古屋市の対し、いつ、豊山町の考えを公言するのか。

A 町長
現時点で愛知県は、新たな防災拠点の具体的な内容を示していないが、本町も有力な候補地となり得ると考えている。引き続き県の動向を見守りながら、本町に必要な防災機能の充実にしっかり取り組んでいく。



12月定例会

討議

審議結果

委員会視察

一般質問